



院長室
だより

昨年から始まった ヒトT細胞性白血病ウイルス (HTLV-1) 総合対策

成人型T細胞性白血病(ATL)ってご存知ですか？九州や沖縄で50歳以上の人が多く発症する白血病の一種で、ヘルパー T細胞と呼ばれているCD4+細胞が白血病化する病気です。発症するといいい治療法がないため、1年くらいでなくなる予後が悪い病気です。この病気の発症に関係しているのが、ヒトT細胞性白血病ウイルス(HTLV-1)です。人生50年と言われていた時代には、悪さをしなかったウイルスです。

このウイルスは数十万年前にヒトに感染したと考えられています。人の移動とともに世界に広がった由緒正しいウイルスです。日本では縄文人との関係が指摘されています。

ATLは20世紀末までは、九州や沖縄の病気と考えられていましたが、人の移動により21世紀には日本各地でHTLV-1を持っている人(キャリア)が見つかるようになりました。三重県では、以前は黒潮の流れに沿った紀伊半島や志摩半島の人にキャリアが見つかる頻度が高かったのですが、近年は三重県北部でもキャリアが見つかっています。

HTLV-1が感染する主なルートは、母親から母乳を介する児への感染か、性行為による男性から女性への感染です。HTLV-1総合対策とは、日本からHTLV-1の排除を目指し、母親から児への感染防止対策を充実させ、ATLなどのHTLV-1関連疾患の治療法、キャリアからのATL発症を予防する方法を開発するとともに、HTLV-1キャリアをサポートする

体制を整備するものです。

2010年から国の施策として始まっています。

三重県では昨年産科の先生方が、妊婦さんがHTLV-1に感染していないかの検査を始めました。妊婦さんがキャリアと診断されると、母乳による母親から児への感染のリスクと、感染後にATLを発症するリスクが伝えられ、生まれてきた赤ちゃんの育児方法を相談することになっています。

現在まで分かっている母乳による母児感染のリスクは、6か月以上母乳を続けると20%、3~6ヶ月間母乳を続けると8%、3か月までの短期間母乳を続けると3%感染し、全然母乳を与えなくても2~3%感染します。また、母乳を搾乳し一度凍結させた後、融解して飲ませる(凍結融解母乳)方法でも3%感染します。なお、感染者がATLを発症するのは感染者の5%で、多くは50歳以上になってからです。

現在母乳育児が優れていることが証明され、多くの人は短期間でも母乳育児を行っています。三重中央医療センターのようにユニセフからBaby Friendly Hospital (BFH)の称号を受け、母乳育児を推進している医療機関もあります。HTLV-1キャリアの人の中には、悩みながら人工栄養を始める人、悩みながら途中で母乳栄養をやめる人が出てきます。これらの人をサポートするのが、キャリアの母親から生まれてきた子どもを支援する小児科医や看護師、保健師の役割になっています。また、キャリアの母親から生まれた子どもは、3歳になったらHTLV-1が感染していないか検査することになっています。

当院を受診する人で、HTLV-1のキャリアであることが見つかると、育児に悩んでいるときは御相談ください。(院長 庵原 俊昭)



三重病院外来ホールにて
“12月はサンタさんが
出迎えてくれますよ～。
サンタさんの贈り物は
やつぱり…健康かな?”

糖尿病教室は、12月・1月お休みにさせていただきます。次回は2月に開催致します。